

■ 英国インド省の眼から見た砂漠の王国誕生

近代サウジアラビアの成立 1914~1939年頃

The Creation of Modern Saudi Arabia, c. 1914–1939

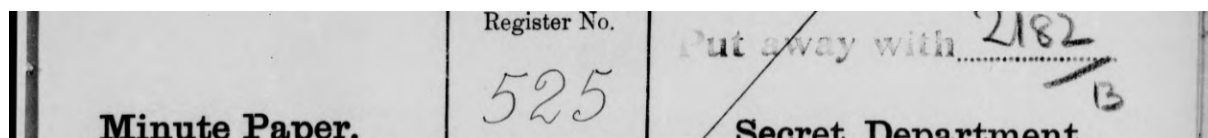
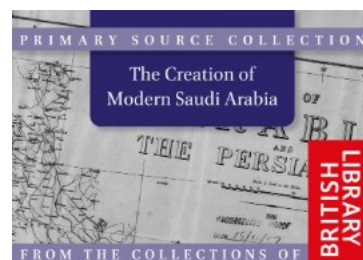
サウジ建国とイギリスの関与を、網羅的かつ体系的に記録

英国インド省の政治・機密部門のアーカイブは、サウジアラビアの国家としての歴史を知るうえで優れた資料群です。本コレクションでは、これらの主要な文書が初めて完全な形でデジタル化され、提供されています。機密扱いの印刷報告書、地図、覚書、便覧のほか、政治・機密部門の政策ファイルが含まれており、国際関係の広範な背景、拡大する政治行政の実務的な詳細、さらには社会・経済インフラの発展についても記録されています。

サウジアラビア王国は、1932年にアブドゥルアズィーズ・ビン・アブドゥルラフマーン・ビン・ファイサル・アール・サウード（イブン・サウード）によって正式に建国されました。1902年のサウジ軍によるリヤド奪還から1930年代の石油資源の開発・利用に至るまで、英国はサウジ王室と緊密な関係を維持し、その過程を詳細に記録しました。20世紀初頭にはアラビア半島中央部の小規模なスルタン国にすぎなかったサウジ王国が、第二次世界大戦前夜には経済的に強力な近代国家へと成長する様子をうかがうことができます。

英国のアラビアおよび湾岸地域への関心は、17世紀の東インド会社による最初の接触にまで遡ります。その後、経済的・戦略的理由から、この地域はインドにおける大英帝国の広範な政治・経済圏に組み込まれていきました。英国のアラブ諸国との関係は、通常、湾岸地域に駐在する政治官や代理人によって管理され、彼らはボンベイ、カルカッタ、またはデリーの帝国政府に直接報告し、最終的にはロンドンのインド省に報告を上げていました。

英国政府のこの地域に対する政策はインド省で策定され、インド亜大陸外の地域との関係を統括・監督するのが政治・機密部門の役割でした。第一次世界大戦後、外務省や植民地省のアラビア問題への関与が増し、管轄が複雑化したものの、第二次世界大戦に至るまで、インド省はこの地域における英国の情報収集や政策立案において重要な役割を果たし続けました。



大学・学術機関向け

買い切り(Outright Purchase)・同時アクセス無制限

※大学・学術機関向け IP 接続・同時アクセス無制限でのご利用となります。

※Archive 買い切りの年間管理費(Annual Hosting Fee)は不要です。

※正式な見積価格は最寄りの弊社まで別途ご用命ください。

トライアルも承ります!! 詳細お問い合わせは弊社まで

日本総代理店 **極東書店**

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821

URL: <https://www.kyokuto-bk.co.jp>E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp

サウジ国家の成立

1902 年、将来の国王アブドゥルアズィーズ・アール・サ우드（イギリスでは「イブン・サ우드」として知られる）が、対立するハイルのイブン・ラシード軍からリヤドを奪還すると、英国は急速に変化するアラビア中央部の情勢に対してますます関心を寄せるようになりました。1914 年までに、英国はクウェート駐在の政治官 W. H. I. Shakespear 大尉を通じて、イブン・サ우드との一連の会談を開始していました。1915 年 12 月に締結された Darin 条約（英・サウジ条約）を境に、英国はそれまでの「アラビア内陸部の政治には関与しない」という方針を徐々に放棄していき



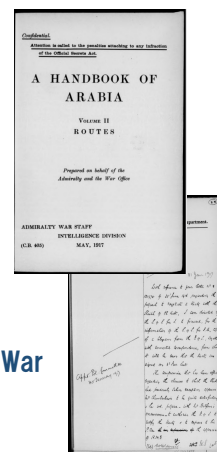
その後の 25 年間、英国の湾岸、ロンドン、インドの各政府関係者は、アラビアの政治情勢の変化を観察・記録し続けました。第一次世界大戦中、英国の現地代理人は、南西アラビアにおける勢力均衡の変動や、サウジとイエメンの間で繰り広げられた抗争について報告しています。この対立は、1930 年のアシール地方のサウジ編入、さらに 1934 年のターイフ条約におけるサウジ・イエメン国境の確定へとつながりました。

また、サウジアラビアの石油産業の発展は、英国の経済的・戦略的関心とも密接に結びついており、それに伴い、サウジアラビアの北部、東部、南東部の国境問題も進展した。特に、英国が統治していたアデン植民地（現・イエメン南部）やその保護領との境界問題も絡んでいました。一方で、サウジ国家の行政機構やインフラが驚異的な発展を遂げる過程も、英国の官僚や技術専門家によって記録され、時には助言もなされました。

英国の記録は、その性質上、主に英国側の視点からのものではありませんが、当時の官僚や軍人の知識や手腕、英国の旺盛な情報収集欲、さらには Shakespear 大尉、Gertrude Bell、H. St. J. B. Philby といった冒険家・官僚の、時に分かれる忠誠心が組み合わさり、近代サウジ国家の台頭についての緻密で驚くほどバランスの取れた記録が作成されました。

■文書のタイプ別に、全 8 セクションに整理されたアーカイブ

1. Gazetteers and Handbooks
2. Arabian Politics and the First World War
3. Arabia after the War – Territorial Consolidation, the Conquest of the Hijaz
4. Regional Relations and Boundaries – Kuwait, Iraq, and Transjordan, 1920-1932
5. Regional Relations and Boundaries – Asir, Yemen, and the Red Sea, 1919-1934
6. The Kingdom of Saudi Arabia – Government and Infrastructure
7. The Kingdom of Saudi Arabia – International Relations
8. The Kingdom of Saudi Arabia – Oil, Boundaries, and Regional RelationsPost-War Economic Development



第 1 セクションには、政治・機密部門の部門図書館（L/P&S/20）に保存されている印刷版地誌・便覧と、インド省軍事部門（L/MIL/17）の図書館からの関連資料が収録されています。その他のセクションには、インド省の政治・機密部門の主題別ファイルが、主要なトピックごとに整理されています。

Gazetteers and Handbooks には、サウジアラビア全域の歴史、地理、社会、経済に関する情報が記録されており、地図、部族の記述、主要人物の伝記的記録も含まれています。つづく、政治・機密部門の主題別ファイルには、アラビアおよび湾岸地域における英国代表者からの報告書や書簡が含まれている。さらに、外交交渉、国境問題、石油利権交渉に関する詳細な記録も収められています。

具体的には、各部門間会議の議事録、石油会社との書簡や契約書、石油利権契約の草案と最終版（地図付き）、国境協定および地図、各国政府間の協議記録、外交書簡などがあります。

また、本コレクションには、アブドゥルアズィーズ国王や他の地域統治者からの書簡、中央政府の機構、インフラ、地理、社会・宗教生活、主要人物に関する幅広く独自の情報も含まれています。さらに、地方行政の設立や社会・経済インフラの構築に関する背景情報や実務的詳細を記録したファイルも含まれており、大変詳細で広範な文書群となっています。